

杭州 日本人学校



世界文化遺産の西湖に沈む夕日



校舎全景

Hangzhou Japanese School

URL <http://www.hzjschool.com>

児童生徒数 幼=8人 小=31人 中=3人



中学部3年 家庭科「保育実習」(本校幼稚部にて)



小学部4年 算数

中国有数の景勝地にある 最先端テクノロジー都市

杭州は上海から高速鉄道でわずか一時間、中国浙江省の北部にあり、「上有天堂、下有蘇杭(上には天国があり、下には蘇州・杭州がある)」とたたえられるように、蘇州と並ぶ景勝地として有名である。古くは遣唐使が足跡を刻み、南宋の時代には都が置かれ、中国八大古都の一つにも数えられている。市内には世界文化遺産の西湖があり、多くの観光客が訪れる。その美しさは白楽天や蘇東坡など大詩人が詩を詠んだり、この地を訪れたマルコ・ポーロに絶賛されたりしたほどである。

都市としての発展も著しく、一

九九九年に電子商取引の最大手アリババグループが杭州で創業するなど、世界有数の最先端テクノロジー都市へと変貌を遂げた。二〇二二年の夏には、アジア地域を対象にした国際総合競技大会「アジア大会」が、ここ杭州で開催される予定になっている。

現地の教育環境

中国の学校制度は、日本と同じ満六歳からの六・三・三・四制を採用しており、最初の九年間が義務教育となっている。学校年度は九月開始の二期制である。一九九五年より週五日制となり土・日が休日になったが、都心部では保護者の教育熱が高く、多くの子どもは塾や習い事に複数通っている。また学校では小学一年生から毎日六時間以上の授業を受け、多大な宿題や課外の補習があり、子どもの負担は大きいと思われる。

市内には複数のインターナショナルスクールがあるが、そこに通う在留邦人子女は少ない。本校が位置する銭塘新区には大学が多く、約二十万人の学生が生活している。最近、アフリカ系の留学生をよく見かけるようになり、国際色豊かな街になりつつあるのが感じられる。しかし大学卒業後の就職活動が厳しくなり、大学院進学や海外留



小学部6年・中学部2年
修学旅行「北京」万里の長城



歓迎遠足 ゲーム大会



中国伝統文化製作体験
「切り絵」
(現地大学生ボランティアとの交流)



小学部1・2年
生活科校外学習
「町探検」



学習生活発表会 小学部3・4年劇

笑顔で登下校できる学校

学を選択する学生も増えている。

本校は二〇〇八年四月に開校した、幼稚部(四・五歳児)と小・中学部合わせて四十二人の中国国内でいちばん小さな日本人学校である。少人数のきめ細かな学習指導と、温かな人間関係を築きながらの教育活動を特長としており、休み時間になると子どもたちが学年に関係なくいっしょに遊ぶほほえましい姿が見られるのは小規模校のよさである。

地元政府の多大なる支援もあり、学校には人工芝のフィールドを備えた一週二〇〇坪の全天候トラックや体育館、図書室などの特別教室があり、小規模校としては充実した学校施設となっている。

学校教育目標に「志高く夢を抱き、自ら

成を掲げ、日々「笑顔で登校 笑顔で下校」できる子どもたちの具現化を目指している。

学習指導では、今年度、小・中学部全教室に電子黒板とデジタル教科書を導入し、ICT機器を効果的に活用した授業づくりを積極的に進めている。外国語学習にも力を入れていて、全学年で週一時間のネイティブスピーカー講師による中国語会話を設定している。また毎週木曜にはモジュール授業「杭州タイム」で浙江工商大学の学生ボランティアによる「中国語会話」を行っている、子どもたちに好評である。

現地理解教育では、全校で「銭塘江の逆流見学」や「中国伝統文化製作体験」に出かけるほか、日系企業の工場見学を小学部で、接客業体験や先端技術体験といった職場体験学習を中学部でカリキュラムに組み込んでいる。現地校との交流活動では、秋の運動会に地元の小学生を招いたり、地元の小学校を訪問して授業体験をしたりするのに加え、浙江工商大学の学生ボランティアが企画するレクリエーションを学生といっしょに楽しむなど、日中の親交と相互理解を子どもたちの目線で深めている。

今後も「日中友好のかけ橋」となるグローバル人材の育成を目指し、教職員が一丸となり、切磋琢磨しながら日々の教育活動の充実に努めていきたい。

(二〇二〇年十二月現在)

子どもたちから

行事で全校生みんなが
心を一つにするのが楽しいよ
(小4)

三年生から部活動に入る事ができて一緒に運動をしたり、勝負をしたりする事ができますよ。(小6)

人数が少ない分、先生と自分に合った学習ができる事が出来て、自分を進歩させる事が出来るよ。(中3)